



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 41 No. 4
August 2016**

毒理学ニュース

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

第 19 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	43
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	45
認定試験受験資格のための評点表	47
第 44 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 1 報)	49
2017 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領	50
2017 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	51
2017 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	51
第 43 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	52
第 55 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①	53
第 55 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②	54

日本毒性学会編集委員会からのお知らせ

International Advisory Board の紹介	55
----------------------------------	----

その他のお知らせ

フォーラム 2016 : 衛生薬学・環境トキシコロジー	59
日本薬物動態学会 第 31 回年会	59
第 23 回日本免疫毒性学会学術年会	59

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

入会案内・変更手続き

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程

第 19 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会
 教育委員会委員長 務台 衛
 認定試験小委員会委員長 久米 英介

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は毒性学ニュースまたは学会ホームページに掲載の「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規定に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

1. 日 時

2016年10月2日(日)(9:15~16:30 予定)

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス(予定)

(東京都品川区旗の台1-5-8)

* 東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2016年7月1日(金)~8月12日(金)(必着)

4. 出願書類

- 1) 願書と受験者確認票
- 2) 写真 2枚(縦3.5cm × 横3cm)
(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

- ・ 会員歴：出願時にJSOTの会員であること
- ・ 研究歴

詳細は「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」をご覧下さい。出願書類は記録の残るもの(書留、信書便等)でお送り下さい。

5. 受験料

30,000円(下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：一般社団法人日本毒性学会

※領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証にかえさせていただきます。

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. 出願書類送付先・問合せ先

一般社団法人日本毒性学会 事務局

認定試験小委員会

〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル
(株)毎日学術フォーラム内

TEL: 03-6267-4550 / FAX: 03-6267-4555

E-mail: jsotHQ@jsot.jp

第 19 回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真貼付欄

受験番号

氏 名

(氏名をご記入下さい)

切
り
取
り
線

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

西暦 年 月 日提出

ふりがな 氏 名			
JSOT 会員番号			
生年月日	西暦	年	月 日

写真貼付欄

所属機関	
職 名	

学 歴	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	

職歴 毒性研究 研究歴 (大学院以上)	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	

受験票送付先	
住所	(〒)
電話番号	
FAX	
e-mail	
試験当日の緊急連絡先	
携帯電話	
e-mail	

書類審査基準チェックリスト	
<input type="checkbox"/>	JSOT 会員であること
<input type="checkbox"/>	毒性学領域における実績 (6 年制大学卒業後満 5 年以上, 4 年制大学卒業後満 7 年以上, 短期大学卒業後満 10 年以上, 高等学校卒業後満 12 年以上, またはこれらに準ずる年数の実績)
<input type="checkbox"/>	受験資格評点基準における総合点が 80 点以上

切り取り線

認定試験受験資格のための評点表

「一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程」の付表（脚注に注意）を参考に自己採点の上，下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお，下表中の論文についてはそのコピーを，学会等参加については参加証のコピーを，学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを，また，講習会については参加証のコピーを，それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏 名：

所属機関：

種 別	評 点 項 目	評 点
論 文	毒性学関連論文 ^{1), 2)}	
学会活動	発表 ¹⁾	
	JSOT 学術年会	
	参加	
	発表 ¹⁾	
講習会等	毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	
	参加	
講習会等	基礎教育講習会	
	JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	
	合 計	

1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については10点，それ以外の共同発表の場合は5点とする。

2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

3) IUTOX 定期総会（ICT），ASIATOX 定期総会，SOT 年会，EUROTOX 年会，日本安全性薬理研究会，日本衛生学会，日本環境変異原学会，日本産業衛生学会，日本獣医学会，日本実験動物学会，日本製薬医学会，日本先天異常学会，日本中毒学会，日本毒性病理学会，日本内分泌攪乱化学物質学会，日本免疫毒性学会，日本薬学会，日本薬物動態学会，日本薬理学会

4) JSOT 生涯教育講習会等

切り取り線

第44回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報）

（年会ホームページ：<http://jsot2017.jp/>）

1. 会期

平成29年（2017年）7月10日（月）～12日（水）

務台 衛（田辺三菱製薬株）

山田 久陽（大正製薬株）

横井 毅（名古屋大学）

吉成 浩一（静岡県立大学）

2. 会場

パシフィコ横浜 会議センター

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

TEL：045-221-2155（総合案内）

URL：<http://www.pacifico.co.jp/>

3. テーマ

トランスボーダー：学問領域の枠を超えた毒性学

6. 一般演題募集

一般演題（口演およびポスターでの発表）を2017年1月から受け付ける予定です。

発表は会員のみとなりますので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。

日本毒性学会ホームページ：<http://www.jsot.jp/>

4. 年会長

熊谷 嘉人（筑波大学医学医療系 環境生物学分野）

7. 優秀研究発表賞

2017年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

5. 企画委員（敬称略・五十音順）

青木 豊彦（株サンプラネット）

青木 康展（国立環境研究所）

赤池 孝章（東北大学）

荒牧 弘範（第一薬科大学）

石塚真由美（北海道大学）

小椋 康光（千葉大学）

鍛冶 利幸（東京理科大学）

菅野 純（日本バイオアッセイ研究センター、
国立医薬品食品衛生研究所）

北嶋 聡（国立医薬品食品衛生研究所）

小池 英子（国立環境研究所）

古武弥一郎（広島大学）

小柳 悟（九州大学）

佐藤 雅彦（愛知学院大学）

鳥羽 陽（金沢大学）

中村 和市（北里大学）

西田 基宏（生理学研究所）

野原 恵子（国立環境研究所）

野村 護（株イナリサーチ）

姫野誠一郎（徳島文理大学）

広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）

黄 基旭（東北大学）

堀井 郁夫（ファイザー，昭和大学）

松沢 厚（東北大学）

三浦 伸彦（労働安全衛生総合研究所）

宮内 慎（持田製薬株）

8. 特別企画

年会長招待講演，特別講演，教育講演，シンポジウム，就職活動支援プログラム，市民公開セミナーを企画予定です。

9. ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー，広告掲載，展示出展を募集します。詳細については追ってご案内します。

10. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

年会ホームページ：<http://jsot2017.jp/>

11. 年会事務局

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学
健康医科学イノベーション棟307

筑波大学医学医療系 環境生物学分野

事務局長：新開 泰弘

事務局次長：広瀬 玲子

事務局参与：藤原 泰之

（東京薬科大学 薬学部 公衆衛生学教室）

TEL：029-853-3133 FAX：029-853-3259

E-mail：secretariat@jsot2017.jp

2017 年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格：日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格：日本毒性学会理事 1 名。

表彰：授賞者数は毎年, 最大 1 名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演（15 分程度）を行う。

候補者の推薦：推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

1. 推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（1,000 字以内）
3. 特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2016 年 12 月 31 日（土）

2017 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満65歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は2017年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は2017年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去5年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2016年12月31日（土）

2017 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は2017年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は2017年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsothq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2016年12月31日（土）

第 43 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 43 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	一般社団法人日本毒性学会
要旨集価格	3,500 円（1 部）

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 43 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

第55回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① – AOPの基礎とゼブラフィッシュの今後の発展に期待 –

ファイザー株式会社 非臨床開発研究部 瀧 憲二



第55回米国毒性学会 (Society of Toxicology, SOT) 学術年会は、2016年3月13日の教育コースから始まり、3月17日まで、ルイジアナ州ニューオーリンズの New Orleans Ernest N. Morial Convention Center において開催されました。今回私は日本毒性学会教育委員会が企画している SOT 派遣事業の一環として、教育コースの「Adverse Outcome Pathway (AOP) Development and Evaluation」および「Zebrafish As a Tool in Toxicology and Drug Discovery Screening」を受講させていただきました。

午前中に受講した AOP のコースでは、SOT に参加できなかった人のためにウェブキャストによるネット上映もなされており、新たな試みが行われていました。内容は AOP の基本から、AOP 構築の原理原則、現在の AOP を取り巻く状況、ESFA (European Food Safety Agency) 規制当局側の対応状況について説明されました。AOP 構築については研究者の協力が不可欠で、教育コースとは別に、直接 AOP を PC 上で構築してみようという Hands-on セミナーも後日開催されていました。午後の Zebrafish のコースでは、ゼブラフィッシュのモデル動物としての歴史から、Toxicology research (生殖発生毒性、肝毒性、心毒性および神経行動学的毒性試験) および Drug screening への応用例の紹介、現在の規制対応に関わる状況などについても触れられていました。両者とも基本的な部分から解説が進み、step up するように構成されていたため、大変理解しやすい内容でした。ゼブラフィッシュについては、プラットフォームセッションやポスター発表についても約 90 を超す発表があり、生殖発生毒性に始まり、行動量の変化を測定することによる毒性評価など今後のさらなる研究の発展に期待が持てる内容でした。

今回 SOT に派遣していただき、国際学会での最新のサイエンスに触れることができ非常に貴重な経験となりました。この SOT の教育コース派遣は、学会員の皆様にとって国際学会での最新の情報に触れられる大変良い機会だと思います。最後に、このような機会を与えてくださった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、また SOT 参加にあたり社内業務のフォローをしていただいた関係者の皆様に、心よりお礼を申し上げます。



第 55 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告② — Continuing Education Course 教育コースに参加して —

日産化学工業株式会社 生物科学研究所 安全性研究部 阿部 正義



日本毒性学会教育委員会が企画する SOT 派遣事業の一環として、第 55 回 SOT 学術年会の教育コース「Unique Approaches to Safety Assessment of Gene, Cell, and Nucleic Acid-Based Therapies」および「Embryology and Developmental Toxicity Testing」を受講させていただきました。学術年会は 2016 年 3 月 13 日から 17 日の日程で、ルイジアナ州ニューオーリンズのモリアルコンベンションセンターで開催されました。

Gene, Cell, and Nucleic Acid-Based Therapies コースでは、遺伝子治療、細胞治療、ゲノム編集技術を用いた治療の概要、前臨床安全性試験の概要および最新の取り組みについて、(1) Toxicological Approaches to Gene Therapy, (2) Toxicological Approaches to T-Cell Immunotherapies, (3) Toxicological Approaches to Cell Therapies, (4) Toxicological Approaches to Genome

Editing の 4 講演がなされ、最後に FDA の細胞・組織・遺伝子治療の専門部局から各治療における前臨床安全性試験の概要およびそのポイントについて講演がありました。

これらの講演では、遺伝子治療特有の安全性の懸念点、それらを踏まえ安全性試験において考慮すべき点、また具体例として遺伝子改変 T 細胞治療ではサイトカイン放出症候群および正常組織への攻撃が安全性の懸念であり、臨床試験での死亡例を含む事故、それを事前予測し回避する試みとして動物モデルの開発とその課題点について発表がありました。さらに、最新のゲノム編集技術による遺伝子治療では CCR5 遺伝子ノックダウン HIV 治療を例として、具体的な前臨床試験項目について理解を深めることができました。FDA 当局を含め各演者が仰っていたことは、製品の特性や治療法に合わせた case-by-case の対応となるため、研究の早い段階において当局とのコミュニケーションが大切であることを強調されていました。

今回 SOT に派遣して頂き、教育コースの受講に加え、学術集会ではさまざまな分野の最新情報を収集することができ、非常に貴重な経験を積むことができました。最後にこのような機会を与えてくださった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様へ深く感謝いたします。



International Advisory Board の紹介

The Journal of Toxicological Sciences 誌は国際学術誌として発展してきたが、このたび International Advisory Board を設置し、国際化をさらに進めることになった。幸いにも国際的にも著名な一流の研究者の参画を得ることができた。ここに International Advisory Board の1人である佐藤哲男先生に Board メンバーの紹介をお願いした。改めて素晴らしいメンバーに、編集委員長として感無量である。ご尽力いただいた佐藤哲男先生に心より感謝申し上げる。

鍛冶 利幸

(The Journal of Toxicological Sciences 誌 Editor-in-Chief)

The Journal of Toxicological Sciences は鍛冶利幸編集委員長ならびに関係各位のご尽力により国際的に高い評価を得られるまでに発展した。今後、さらに質的な向上を期して、この度国際的に著名なトキシコロジー研究者に International Advisory Board を依頼することとなった。これがひきがねとなって、本誌が一段と飛躍することを祈念したい。

佐藤 哲男

(The Journal of Toxicological Sciences 誌 International Advisory Board)

■ Daniel Acosta, Jr. PhD, ATS*

現職 : Deputy Director, USFDA・NCTR (National Center for Toxicology Research) (2014-)

学歴, 職歴 : University of Texas College of Pharmacy faculty (1974-1996), 4th Dean of the University of Cincinnati, College of Pharmacy (1996-2011) and a member of the faculty (2012-2013). 現在, 次の3大学薬学部の advisory board を務めている; The University of Texas; the University of Missouri at Kansas City, University of Arkansas for Medical Sciences

学会活動 : SOT**, IUTOX*** の各種委員を務めた後, SOT President (2000-2001), IUTOX President (2010-2013) となった。FDA, EPA の Advisory Board; Past chair of NCTR's Scientific Advisory Board, Past member of the EPA's Chemical Assessment Advisory Committee

主な受賞 : 1st Specialty Section on In Vitro and Alternative Methods for career contributions to the field of in vitro toxicology (SOT), Burroughs Wellcome Toxicology Scholar Award (SOT), Colgate Palmolive Visiting Professor in In Vitro Toxicology (SOT); Foundation Award in Excellence given by the PhRMA Foundation

編集 : Editor, Toxicology In Vitro, Cardiovascular Toxicology, Associate Editor, In Vitro Cellular and Developmental Biology

専門領域 : トランスレショナルリサーチ

[さらに一言]

Acosta 教授はシンシナチ大学薬学部に勤務している頃から FDA, EPA の各種委員を歴任した。また、薬学におけるトキシコロジー教育にも大きく貢献した。種々の学会の優れたまとめ役として SOT, IUTOX の President となった。アジアの毒性研究者との交流も多く、ASIATOX-VI (仙台) や JSOT 年会などにも参加し、日本でも友人が多い。

■ Frederick P. Guengerich, PhD

現職 : バンダービルト大学医学部教授 (1983-), Tadashi Inagami Professor of Biochemistry, Vanderbilt University School of Medicine (2013-)

学歴, 職歴 : バンダービルト大学を卒業後, 同大学医学部生化学教室の Associate Professor を経て 1983 年から現在まで Department of Biochemistry の教授として勤務している。1980-2011 年には, Director, Center in Molecular Toxicology となった。

学会活動 : Amer. Soc. Biochem. Molec. Biol., Amer. Soc. Pharmacol. Exptl.; Ther., Society of Toxicology, Sigma Xi, Amer. Assoc. Cancer Res., Int. Soc. Study Xenobiotics ほか。NIH, NIEHS の各種委員会の委員, 委員長も務めている。

主な受賞 : Achievement Award (SOT) (1982); R.T. Williams Distinguished Scientific Achievement Award (ISSX) (2010), Founders' Award (Amer. Chem. Soc. Division of Chemical Toxicology) (2011), Merit Award (SOT) (2013) ほか : Hirsch Index (*h*-index): 133 (30 April 2016, ISI/Thomson Reuters)

編集 : Associate Editor, Toxicology and Applied Pharmacology (1980-1984), Molecular Pharmacology (1982-1985), Cancer Research (1985-1989, 1993-2003), Chemical Research in Toxicology (1989-), The J. Biol. Chem. (Associate Editor, 2006-), Interim Editor-in-Chief (2015-2016); Deputy Editor & Interim Editor-in-Chief, Critical Reviews in Toxicology (1986-), Nature Reviews in Drug Discovery (2001-)

専門領域 :

1. Catalytic mechanisms of P450 enzymes.
2. Mechanisms of bioactivation of chemicals and their reactions with DNA and proteins.
3. Understanding the roles of conjugation in the bioactivation of carcinogens.
4. Characterization of interactions of DNA polymerases with damaged DNA.

[さらに一言]

Guengerich 教授は 1973 年に Vanderbilt 大学を卒業後、Cytochrome P450 を中心とした薬物代謝研究の領域で国際的に著名な研究者である。日本からポストドクで彼の研究室に在籍した人が多い。国内の学会からの招聘でたびたび来日しており、教え子、友人が多い。

■ K. Nasir M. Khan, PhD, DVM, DABT, DACVP

現職 : Pfizer Inc, Vice President, Drug Safety R & D, Therapeutic Area Group 2 and DSRD-Tokyo (2007-), Sponsor of Pfizer Global Pathology Leadership Team, Member of Development Leadership Team (DLT), Member of Research Portfolio Teams (Rinat and La Jolla), Senior Director and Site Head - Development and Regulatory Strategy Ann Arbor, MI (2006-)

学歴, 職歴 : Doctor of Veterinary Medicine (DVM) (1982) (University of Agriculture, Faisalabad, Pakistan); MSci (Veterinary Pathology) (1985) (University of Agriculture, Faisalabad, Pakistan); Residency Training in Veterinary Pathology (1988-1992) (The Ohio State University, Columbus, Ohio); PhD (Hematology) (1992) (The Ohio State University, Columbus, Ohio). 2000 年に Pharmacia Corp に入社し, Director, Global Toxicology として勤務後, 2003 年に Pfizer Inc に入社し今日に至る。

学会活動 : American College of Veterinary Pathology (1993-), American Veterinary Medical Association (1989-), The United States & Canadian Academy of Pathology (1994-), The Society of Toxicologic Pathology (1995-), American Association for the Advancement of Science (1998-)

取得認定資格 : Diplomate of the American College of Veterinary Pathology (DACVP) (1993), Diplomate of the American Board of Toxicology (DABT) (1997) (Recertification 2001 & 2006)

受賞 : Distinguished Alumnus Award, The Ohio State University, College of Veterinary Medicine (2008).

Upjohn Award (given to Pharmacia employees with sustained high quality contributions) (2002)

Phi Zeta Research Award (1992), MART/PARC Fellowship (1988-1992) ほか

専門領域 : Drug Safety R & D

[さらに一言]

Nasir Khan 博士は 1992 年に The Ohio State University で PhD を取得。Pharmacia で毒性学的研究に従事し, その後 Pfizer 社において Global R&D の中で安全性評価の責任者としての任を果たしている。なお, 医薬品の広範な治療領域に関する深い知見と毒性病理学者としての資質が質の高い安全性評価を導きだしている。

■ Ian Kimber, PhD, ATS

現職 : 英国マンチェスター大学教授, Professor of Toxicology and Associate Dean for Business Development in the Faculty of Life Sciences at the University of Manchester.

職歴 : ICI/Zeneca Central Toxicology Laboratory, Syngenta 社 (英国) 勤務。

学会活動 : Member, UK Medicines and Healthcare products Regulatory Agency (MHRA) Devices Expert Advisory Committee, Programme Advisor Food Standards Agency Food Allergy Intolerance Research Scientific Advisory Board, National Institute for Biological Standards and Control, Chair, MRC Translational Research Group, President of the British Toxicology Society (2012-2014), Chairman of the Board of the UK National Centre for the Replacement, Refinement and Reduction of Animals in Research (NC3Rs) (2008-2013).

主な受賞 : The SmithKline Beecham Laboratory Animal Welfare Prize (2000), The 9th Robert A Scala Award in Toxicology (2001), The Doerenkamp-Zbinden Foundation Prize for Realistic Animal Protection in Biomedical Research (2001), Enhancement of Animal Welfare Award (SOT) (2003), Immunotoxicology Career Achievement Award(SOT) (2005), Eurotox Bo Holmstedt Memorial Fellowship Award (2010), An OBE in the Queen's Birthday Honours list for services to science (2011) (OBE : 大英帝国勲章), Distinguished Toxicology Scholar Award (SOT) (2015), The Barnes Prize Lecture by the British Toxicology Society (2015).

専門領域 : 免疫毒性学 The interface between toxicology and immunology, with a particular focus on allergy and inflammation.

編集 : Editorial boards of toxicology, immunology, dermatology and pathology journals.

[さらに一言]

Kimber 教授はマンチェスター大学に赴任前は, 英国マンスフィールドにあった ICI/Zeneca Central Toxicology Laboratory に勤務していた。その頃から免疫毒性学の領域で多くの優れた研究を果たした。中でも Maximization test の代替法として, 彼が開発した化学物質の刺激性試験 Local lymph node assay は OECD で採用された。JSOT 年会や他の集会にも招かれて度々来日している。

■ Lois D. Lehman-McKeeman, PhD, ATS

現職 : Distinguished Research Fellow in Discovery Toxicology at Bristol-Myers Squibb (2001-)

Adjunct Associate Professor: Dept. Pharmacology, Toxicology and Therapeutics, University of Kansas Medical Center, Dept. of Pharmacology and Toxicology, Rutgers University

学歴, 職歴: 1986年にカンザス大学メディカルセンターでPhDを取得。同年Procter and Gamble社に入社し, 2001年にBMSに移った。

学会活動: SOT関係: President (2013-2014); Awards Committee (2008-2011), 多くのSpecialty Section; ATS関係: Board of Directors, (2010-2015), Secretary-Treasurer (2012-2015); EPA関係: Scientific Advisory Board (2014), Science Advisory Panel (FIFRA) (2004); その他: Board of Trustees, International Life Sciences Institute (ILSI), Health Effects Science Institute (2008-), American Association for the Advancement of Science (AAAS) (2008), Academy of Sciences ほか

主な受賞: George H. Scott Award for Scientific Achievement, Toxicology Forum (2006), John Doull Award in Toxicology (Central States Chapter, SOT) (2004), Achievement Award, SOT (2003), Fellow, ATS (2000), Robert A. Scala Award in Toxicology (1994)

編集: Editor: Toxicological Sciences (2002-2011); Editorial Board: Current Opinion in Toxicology (2016-); Fundamental and Applied Toxicology (1995-1997); Drug Metabolism and Disposition (1995-) ほか

専門領域: Drug Discovery Toxicology

[さらに一言]

Lehman-McKeeman博士はカンザス大学においてCurtis Klaassen教授の指導を受けた。Procter and Gamble社ではBiochemical Toxicology部門のPrincipal Research Scientistとして創業に従事した。2001年にBristol Myers Squibb社(BMS)に移り, Discovery Toxicologyの責任者として活躍している。彼女は抜群のリーダーシップがあり, 社外においても, NIH, ILSI, EPA, IARCなどの委員を務めている。SOTにおいては, 各種委員会の委員, 委員長を歴任した後2013年にPresidentとなった。SOTの学会誌であるTox SciのEditorも務めた。

■ Tetsuo Satoh, PhD, ATS

現職: 千葉大学名誉教授 (1996-)

学歴, 職歴: 北海道大学大学院薬学研究科博士課程修了 (1966); 千葉大学腐敗研究所助手 (1996-1975); シカゴ大学毒性研究所准教授, 客員教授 (1971-1973); 千葉大学薬学部助教授 (1975-1984); 東京薬科大学教授 (1984-1988); 千葉大学薬学部教授 (1988-1996); 米国ミシシッピ大学メディカルセンター客員教授 (1996-1997); 昭和大学客員教授 (1996-2011)

学会活動: IUTOX: Vice President (1995-2001); ASIATOX: 初代事務局長 (1995-1997), 理事 (1997-2000), アドバイザー (2000-); 日本毒性学会会員 (1973), 理事 (1990-1995), 名誉会員 (2003-); 米国毒性学会 (SOT) 会員 (1974), 名誉会員 (2010-); ATS (USA) フェロー (2001-); 米国臨床薬理学会 (ASCPT) 会員 (1984), 名誉会員 (2000-); 日本薬物動態学会会員 (1985),

理事 (1992-1995), 名誉会員 (2003-); 日本薬学会会員 (1963), 有功会員 (2011-)

主な受賞: IUTOX Merit Award (2007); SOT Education Award (2010), 1st Colgate-Palmolive Visiting Professor Award (SOT) (1996); 日本薬物動態学会 (JSSX) 学会賞 (1995), DMPK Editor's Award for the Most Excellent Article in 2008 (2009); 日本薬学会教育賞 (1996)

編集: Editorial Board: Reviews in Environmental Toxicology (Elsevier-North Holland) (1984-1989), Human & Experimental TOXICOLOGY (2000-); Associate Editor: J. Toxicol. Sci. (JSOT) (1987-1993), Toxicological Sciences (SOT) (2001-2004); Regulatory Toxicology and Pharmacology (Academic Press) (1993-2000); Editor (初代): Biological & Pharmaceutical Bulletin (BPB) (日本薬学会) (1992-1996)

専門領域: 薬物代謝酵素と毒性発現機構

■ Kai Savolainen, MD, PhD

現職: Professor, Director, Finnish Institute of Occupational Health (FIOH) (1998-)

学歴, 職歴: 1976年にヘルシンキ大学医学部を卒業。米国カンザス大学においてPhD (toxicology) 取得 (1987), Research Professor and Director of the Nanosafety Research Centre of the FIOH (2011-), Professor of Toxicology and Chair of the Department of Pharmacology of the University of Kuopio, Team leader, New Technologies and Risk team FIOH (2006-2010), Director, Nanosafety Research Centre Finnish Institute of Occupational Health (1998-)

学会活動: President of the 10th International Congress of Toxicology (2004), President of EUROTOX (2019); IUTOX: Executive Board (1989-92), Secretary-General (1992-98), President (2007-2010).

主な受賞: Keynote speaker of the International Congress of Occupational Health in Seoul in 2015 ほか

編集: Editor-in-Chief: Human and Experimental Toxicology, Editorial Board: Journal of Occupational Health, Scandinavian Journal of Work, Environmental & Health, Toxicology Letters, Particle and Fibre Toxicology, Nanotoxicology, Safety Science, Toxicology IN Vitro, ACSNano, The Journal of Toxicological Sciences, Nature Nanotechnology, Toxicology

専門領域: inflammatory and genetic effects and risk assessment of engineered nanomaterials.

[さらに一言]

Savolainen教授はフィンランド国立研究機関のtoxicology部門の責任者として永年勤めている。Kuopio大学医学部やヘルシンキ大学の教授として教育に従事した。Nanotoxicology研究において多くのプロジェクトに関わっており, 国際的なリーダーの一人である。中でも, EUが出資している

nanosafety 研究プロジェクトの責任者で、現在、5大陸から25人のパートナーとともに1,000万ユーロの一大プロジェクトをコーディネートしている。JSOT年会やnano関係の会議でたびたび来日しており、国内では多くの友人がいる。

■ Yhun Yhong Sheen, PhD

現職：梨花女子大学薬学部教授（韓国）, Professor, College of Pharmacy, Ewha Womans University (1988-)

学歴, 職歴：Ewha Womans University（梨花女子大学）大学院修士課程修了（1981）Teaching and research assistant, University of Illinois, Urbana, IL USA (1981-1985), Research associate, University of Illinois, Urbana, IL USA (1985-1986), Fellow, NICHD, NIH, Bethesda, MD, USA (1986-1988)

学会活動：Member, Endocrine Society USA (1988-2013), Committee member, National Arbitration of Environmental Dispute (2002-2011), President, Korean Society of Environment Toxicology and Health (2008-2009), President, Korean Society of Applied Pharmacology (2008-2009), Committee member, Central Pharmaceutical Affairs, Korea (2009-2013), Associate member, AACR, USA (2010-2013), Chairman, Division of Preventive Pharmacy, Korea (2011-2013), Committee member, National Planning Environmental Policy (2011-2013), Certified Toxicology professional, Korean Board of Toxicology (2000-2012)

主な受賞：Research Award, Korean Society of Pharmaceutical Sciences (1998), Outstanding article award, Korean society of applied pharmacology (1999), ACT President's Award for the Best Paper Published In International J. of Toxicology (2004), ACT President's Award for the Best Paper Published In International J. of Toxicology (2005), Univera Life-Pharmaceutical Science Award (2007), Award, Uje Award (2014)

編集：Editorial Board: Biomolecules & Therapeutics

専門領域：環境毒性, 環境ホルモン

[さらに一言]

Sheen教授は1981年に韓国、梨花女子大学大学院修士課程を修了し同年渡米した。イリノイ大学のDepartment of molecular and interactive physiologyにおいて研究に従事し、1986年にPhDを取得した。その後、イリノイ大学やNIHでリサーチフェローとして研究を続けた後、韓国に帰国し梨花女子大学薬学部教授として今日に至っている。韓国における環境毒性学のリーダー的立場である。

彼女は一貫して環境ホルモンの分子生物学的研究を続けており、国際学会においても多くの発表、講演をしている。我が国における関連集会にも度々来日し友人が多い。

■ Young-Joon Surh, PhD

現職：ソウル大学薬学部教授（1996-）、ソウル大学 Tumor Microenvironment Global Core Research Center 所長

学歴, 職歴：Surh教授は1983年にソウル大学薬学部修士課程を修了後渡米し、1990年にWisconsin大学(Madison) McArdle Laboratory for Cancer ResearchでPhDを取得。その後、Wisconsin大学(Madison) (1985-1990), Massachusetts Institute of Technology (MIT) (1990-1992)に勤務し、1992年から1996年まではエール大学医学部のAssistant Professorとして研究、教育に従事した。

学会活動：President, The 9th Int'l Conference on Mechanisms of Antimutagenesis & Anticarcinogenesis (2007), Councilor: Int'l Assoc. Environ. Mutagen Society ほか

主な受賞：Elizabeth C. Miller and James A. Miller Distinguished Scholar Award (2011), McCormic Science Institute Award (American Society for Nutrition) (2009), Distinguished Scientist Award given by President of South Korea (2013)

編集：Associate Editor: Molecular Carcinogenesis, Toxicology & Applied Pharmacology (SOT), International J. Oncology, Editorial Board : International Journal of Cancer, Mutation Research, Life Sciences, Food and Chemical Toxicology, Carcinogenesis, Genes and Nutrition, Precision Oncology, Current Cancer Therapy Review (Bentham Science), Cancer Prevention Research (AACR), Cancer Letters ほか H-Index reported by Thomson Reuter of Web Knowledge is 68.

専門領域：Molecular mechanisms of cancer chemoprevention with anti-inflammatory and antioxidative phytochemicals, with emphasis on intracellular signaling molecules as prime targets.

[さらに一言]

Surh教授は1983年に渡米し、PhDを取得後MITでボスドクとして研究に従事し、1992年にエール大学医学部のAssistant Professorとなった。1996年にソウル大学薬学部からの要請により韓国に帰国し39歳の若さで教授となった。これはソウル大学薬学部創立以来の若手教授として当時話題になった。多くの著書の中で、2003年に発刊された“Cancer chemoprevention with dietary phytochemicals. Nature Reviews Cancer, 3: 768-780”は国際的に知られている。

(注)

掲載順はアルファベット順となっております。

[さらに一言] は佐藤哲男の追記

* ATS: Fellow, Academy of Toxicological Sciences

** SOT: Society of Toxicology

*** International Union of Toxicology

その他のお知らせ

フォーラム 2016 :
衛生薬学・環境トキシコロジー

日時 2016年9月10日(土)～11日(日)
会場 昭和大学旗の台キャンパス
(東京都品川区旗の台1-5-8)
主催 日本薬学会 環境・衛生部会

テーマ 衛生薬学の未来を語ろう！
特別講演 研究不正－背景と対策－
(日本学術振興会) 黒木登志夫
教育講演 「あぶら」に秘められた生命応答制御の新しい
仕組み

(都医学研) 村上 誠
フォーラムⅠ：衛生試験法をめぐる最近の話題

オーガナイザー：(明治薬大) 永山 敏廣
(国立衛研) 蜂須賀暁子

フォーラムⅡ：乱用薬物の撲滅に向けて－衛生薬学的観
点から考える－

オーガナイザー：(昭和大薬) 峯村 純子
(昭和大薬) 沼澤 聡

フォーラムⅢ：腸内環境のメタボロミクス

オーガナイザー：(理研 IMS) 有田 誠
(慶應大薬) 長谷 耕二

フォーラムⅣ：生体防御・ストレス応答研究の新展開

オーガナイザー：(昭和大薬) 石井 功
(東北大院薬) 松沢 厚

そのほか、日韓次世代シンポジウム、一般の講演・ポスター
発表を実施します。

問合せ・申込先

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8
昭和大学薬学部社会健康薬学講座衛生薬学部門内
フォーラム 2016 :
衛生薬学・環境トキシコロジー実行委員会
(原 俊太郎)
TEL : 03-3784-8196 FAX : 03-3784-8245
E-mail : forum2016@pharm.showa-u.ac.jp
http://www.senkyo.co.jp/eiseiforum2016/

日本薬物動態学会 第31回年会
一薬物動態研究が切り拓く創薬と薬物治療の新機軸一

日時 2016年10月13日(木)～15日(土)
会場 キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)
松本市総合体育館

主催 日本薬物動態学会
後援 日本毒性学会

主なプログラム(予定)

特別講演, 受賞講演, シンポジウム, 一般口演,
ポスター発表, 学生主催シンポジウム, 共催セミナー

事前参加登録 ホームページからご登録をお願いいたします

事前参加登録締切 8月31日(水)17時

参加費	会員・賛助会員・後援学会会員	10,000円
	非会員・非会員(学生)	13,000円
	学生会員(大学院)	6,000円
	学生会員(学部生)	無料

問合せ先

日本薬物動態学会第31回年会 年会事務局
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
信州大学医学部附属病院 薬剤部内
TEL / FAX : 0263-37-3021
E-mail : jssx31@shinshu-u.ac.jp
学会 URL : http://www.jssx31.org/

第23回日本免疫毒性学会学術年会
(JSIT2016)

期日 平成28年9月6日(火)～7日(水)
《9月5日(月)市民公開講座》

会場 北九州国際会議場
(北九州市小倉北区浅野3丁目9-30)

アクセス http://convention-ajp/access/
JR小倉駅から徒歩5分

テーマ 社会に実践する免疫毒性学

年会長 森本 泰夫
(産業医科大学 産業生態科学研究所 呼吸病態学 教授)

〈市民公開講座 9/5(月) 13:00～16:50〉

テーマ 「工業用ナノ材料の有害性評価手法の開発と労働衛
生管理」

〈年会プログラム 9/6(火)～7(水)〉

【特別講演】

「Inhaled Nanoparticles: Consequences of Exposure and
Approaches for Hazard Identification」

Victor J. Johnson, Ph.D.

(Grants & Contracts PI / Study Director, Bursleson
Research Technologies, Inc.)

【教育講演】

「膠原病における免疫抑制剤の副作用（易感染性、腫瘍形成）とその機序」

齋藤 和義（産業医科大学 医学部 第1内科学）

「薬剤性肺障害とその機序」

矢寺 和博（産業医科大学 医学部 呼吸器内科学）

「アジュバンドによる自己免疫」

佐藤 実（産業医科大学 産業保健学部 成人老年看護学）

【シンポジウム】 ～微小粒子による肺生体影響評価とその社会実践～

「データベース、バイオインフォマティクスから呼吸器疾患へ」

水口 賢司（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）

「アスベスト曝露と悪性中皮腫に関わる免疫学的特徴の解析とスクリーニングデバイスの開発」

西村 泰光（川崎医科大学 医学部 衛生学）

「微細粒子による肺の炎症とアレルギー」

黒田 悦史（大阪大学 免疫学フロンティア研究センター
ワクチン学）

「工業用ナノ材料の有害性スクリーニング法の開発：気管内注入試験」

和泉 弘人（産業医科大学 産業生態科学研究所 呼吸病態学）

【試験法ワークショップ】 ～有害性転帰経路（AOP）と免疫毒性～

【ランチョンセミナー】

【機器展示】

賞 年会において優秀な一般演題を発表した会員に対し、「年会賞」ならびに「学生・若手優秀発表賞」を贈呈する予定です。

発表形式

PCプロジェクターによる口頭発表とポスター発表の予定です。

演題募集期間

平成28年4月18日（月）～6月24日（金）（予定）

事務局

第23回日本免疫毒性学会学術年会事務局
産業医科大学 産業生態科学研究所 呼吸病態学内
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
TEL：093-691-7466 / FAX：093-691-4284
Email：jsit23-office@mbox.med.uoeh-u.ac.jp
ホームページ：http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/kbyotai/
jsit2016/index.html

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

昭和51年 4月 1日制定
平成17年 8月 1日改定
平成24年10月 1日改定
平成26年 7月 1日改定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性に関する重要な知見や発現機構についての研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article : 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter : 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象などを掲載する。
- (3) Review 及び Minireview : 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を一般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (4) Special Issue : 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4ファイルに上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。
- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Resultsなどのサブタイトルは付けない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。

- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。 μm , mm, cm, m, μg , mg, g, kg, μL , mL, L, mmol, mol, μM , mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, $^{\circ}\text{C}$ 。
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith *et al.*, 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

- Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.
- Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.
- (10) Supplemental Data : 一部のデータ(Methodの詳細, 追加データ, DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など)をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁(表題ページ)に下記の中から該当するカテゴリー(5つ以内)を選んで, 関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利害関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿は Microsoft Word ファイルまたは PDF ファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Word で作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を 1 回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

9. Executive Editors

若干名の Executive Editor をおく。Executive Editor の選考は編集委員会に設けられた Executive Editor 小委員会が行う。Executive Editor が責任著者になっている論文または Executive Editor が推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editor はこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる 2 名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦した Executive Editor の氏名が記載される。

10. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^b （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4 頁目からは 16,000 円／頁。 ^b：図等も含む。

Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程

平成 26 年 7 月 1 日制定

Fundamental Toxicological Sciences (略称: Fundam. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質, 天然物成分およびその他の化学物質が示す毒性や様々な指標に与える影響, さらに, それら物質の安全性評価や研究手法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載するオープンアクセスの電子学術雑誌である。掲載論文は peer-review によって決定され, 原則として投稿から 2 週間以内に採用または却下の判定が下される。採用と判定され, かつ, 掲載料が支払われた論文を順次ウェブサイトに公表する。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。
- (2) Letter: 公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report: 毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは 1 つの物質について 1 論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は 1 つの遺伝子について 1 論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。

2. 原稿の構成

A4 判に上下左右に 2cm の余白を取り, 11 ポイントの活字でシングルスペースで記述する表題頁を 1 頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第 1 頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて 70 文字以内), カテゴリー (下記 3 参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けた

ネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第 2 頁に 250 語以下のアブストラクト及び 3 ~ 6 語のキーワードを記す。アブストラクトは改行せず, Method, Results などのサブタイトルは付けない。
- (3) 第 3 頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Conflict of interest, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スペルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, µg, mg, g, kg, µL, mL, L, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/L, mg/mL, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C .
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A 4 判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は 1 つずつ A 4 判 1 ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]. 著者が 3 名以上の場合には筆頭著者のみを表示する [例, (Smith *et al.*, 2004)]. 引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル A12 放射線
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 発達毒性 C8 薬物中毒 C9 薬物依存性 C10 細胞毒性 C11 酸化ストレス C12 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 トキシコミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」(<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/index.html>)の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/genome/0504sisin.html>)

に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 利益相反の開示

投稿論文の全ての著者は、研究の結果や解釈に影響を及ぼす可能性のある金銭的利益関係について開示する必要がある。

7. 原稿の投稿

原稿はオンライン投稿システム (<https://www.e-kenkyu.com/fts-scied/>) から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

8. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿ファイル（本文および図表）を提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。
- (3) 別刷は原則として作製しない。ただし実費での作成は可能。

9. 掲載料

掲載料は、基本料（論文1報当たり）および当該論文に含まれる総単語数と図、表、引用文献のそれぞれの数に応じた金額とする（以下の表参照）。請求書は採用決定後に責任著者宛に送付する。掲載料の支払が確認された論文のみを掲載する。迅速に掲載するために、支払いは原則としてクレジットカードのみとする。期限までに支払いが行われない論文は“採用取り消し”とする。

論文種	掲載料（消費税別）				
	基本料 （円／論文）	単語 ^a （円／単語）	図 ^b （円／図）	表 ^b （円／表）	引用文献 ^b （円／文献）
Original Article	20,000	4	2,500	3,000	150
Letter	30,000	5	2,500	3,000	150
Toxicomics Report	30,000	6	2,500	3,000	150
Review	30,000	5	2,500	3,000	150
Minireview	40,000	5	2,500	3,000	150

^a 本文（Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion）、図表の説明、および引用文献の単語数の合計。^b 論文原稿に含まれる単語、図、表、引用文献の1個当たりの金額。カラーを含む図は追加料金なしで掲載。

入 会 案 内

1. 本会に入会を希望される方は、「一般社団法人日本毒性学会定款」の内容を了承の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
申し込みにあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。
評議員については、学会ホームページ掲載の「評議員一覧」をご覧ください。評議員の会員番号は評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 理事長による入会の承認(定款第10条参照)が得られた後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は5月1日から4月30日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年度の機関紙開始号であるNo.3からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。

一般会員	7,000 円
(ただし定款第16条に定めた評議員は10,000円)	
学生会員	3,000 円
賛助会員	100,000 円

(1.0口)以上(0.2口単位で増やすことができる)
*本年度入会希望の方は、4月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lftes8mjqt9/g7DahB/login.html>)へログインし、手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://area31.smp.ne.jp/area/p/mdkj9lftes8mjqt9/g7DahB/login.html>)へログインし、手続きを行って下さい。

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 9 年 7 月 24 日制定 平成 24 年 1 月 1 日改定
 平成 15 年 7 月 19 日改定 平成 26 年 5 月 1 日改定
 平成 19 年 1 月 16 日改定 平成 26 年 6 月 17 日改定
 平成 21 年 7 月 5 日改定 平成 27 年 2 月 23 日改定
 平成 23 年 1 月 14 日改定

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は、毒性学の進歩発展、安全性試験と安全性評価の信頼性向上に資する毒性学に精通したトキシコロジストを認定するために JSOT 認定トキシコロジスト制度を設ける。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会を設置する。認定試験小委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- (1) JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- (2) 書類審査および認定試験は教育委員会が主催し、理事会の審議を経て、理事長が認定を行う。認定試験小委員会はこれらの実務を行う。
- (3) 書類審査基準は次の通りとする。
 - (イ) 出願時に JSOT の会員であること。
 - (ロ) 出願時に 6 年制大学卒業後 5 年以上、4 年制大学卒業後 7 年以上、短期大学卒業後 10 年以上、高等学校卒業後 12 年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。
 毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等に関する疑義解釈は、教育委員会が行う。

- (ハ) 別表の受験資格評点基準に従って、総合点が 80 点以上に達していること。
- (ニ) 上記のうち、基準に満たない要件がある者についても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。

- (4) 認定試験は原則として年 1 回実施し、筆記試験とする。
- (5) 受験料は 3 万円とする。
- (6) 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- (1) 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は 2 万円とする。
- (2) JSOT 認定トキシコロジストに適切でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後 5 年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. 名誉トキシコロジスト

別途細則に定める要件を満たした者を名誉トキシコロジストとして表彰する。

7. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 27 年 2 月 23 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学術年会 毒性学に関連する学会 ³⁾ の学術年会	10 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
講習会等	基礎教育講習会 JSOT 主催・公認講習会 ⁴⁾	40 / 回 5 / 回	

- 1) 筆頭著者もしくは責任著者（corresponding author）については 10 点、それ以外の共同発表の場合は 5 点とする。
- 2) レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- 3) IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会
- 4) JSOT 生涯教育講習会等

一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

一般社団法人日本毒性学会教育委員会

平成 12 年 6 月 29 日制定
平成 15 年 7 月 19 日改定
平成 19 年 1 月 16 日改定
平成 21 年 7 月 5 日改定
平成 23 年 1 月 14 日改定
平成 24 年 1 月 1 日改定
平成 24 年 7 月 5 日改定
平成 24 年 12 月 12 日改定
平成 26 年 5 月 1 日改定
平成 26 年 6 月 17 日改定
平成 27 年 2 月 23 日改定

- 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
- 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
- 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間継続して JSOT 会員であること。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間に以下に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加していなければならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する）。
 - 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80%以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては 1 回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80%以上に達した場合には合格とする。
- 理事長は資格更新申請を受け、教育委員長に審査を委嘱する。審査の実務は認定試験小委員会が行う。
- 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員長を経て理事長に答申する。
- 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
- 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料を学会に納入する。
- 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
- 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
- 65 歳以上（該当年の 12 月 31 日現在）の時点で認定トキシコロジストの有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる。名誉トキシコロジスト表彰については別途細則にて定める。
- 本細則の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則：平成 27 年 2 月 23 日改定の本細則は同日から施行する。

評点基準

カテゴリー	評点項目	評点	上限（5年間）
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 学術年会 参加 / 発表 毒性学に関連する学会 ¹⁾ の学術年会 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 主催・公認講習会等 ²⁾ （講師を含む）	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX 定期総会（ICT）、ASIATOX 定期総会、SOT 年会、EUROTOX 年会、日本安全性薬理研究会、日本衛生学会、日本環境変異原学会、日本産業衛生学会、日本獣医学会、日本実験動物学会、日本製薬医学会、日本先天異常学会、日本中毒学会、日本毒性病理学会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本免疫毒性学会、日本薬学会、日本薬物動態学会、日本薬理学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・JSOT 生涯教育講習会等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程

平成 27 年 7 月 1 日制定

1. 日本毒性学会は定款第 8 条に定めるところにより、賛助会員をおく。
2. 賛助会員は、定款第 8 条に定めるところにより、本会の事業を援助する団体および個人とする。
3. 賛助会員の会費は年間 100,000 円（1.0 口）以上とし、0.2 口単位で増やすことができる。
4. 賛助会員には以下の特典を付与する。
 - (1) 定款第 9 条に定めるところにより、本会ホームページに賛助会員名と URL を掲載する。
 - (2) 定款第 9 条に定めるところにより会誌の配布を受けるが、具体的には会誌 The Journal of Toxicological Sciences (Supplement を除く) を毎号 1 部の配布を受ける。
 - (3) 学術年会において本会が設置する展示ブース会場において賛助会員名を掲示する。
 - (4) 本会ホームページへの求人広告掲載料（10,000 円）を無料とする。
 - (5) 毒性学ニュースの「賛助会員のページ」に求人広告や集会案内等を記事として無料で掲載する。

付則：平成 27 年 7 月 1 日制定の本規定は同日から施行する。

一般社団法人 日本毒性学会

[名誉会員]

塚田 裕三	石川 栄世	今道 友則	堀口 俊一
亀山 勉	福田 英臣	柳田 知司	池田 正之
加藤 隆一	白須 泰彦	黒岩 幸雄	井村 伸正
佐藤 哲男	林 裕造	渡辺 民朗	高橋 道人
榎本 眞	小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫
黒川 雄二	鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄
長尾 拓	福島 昭治	津田 修治	吉田 武美

[功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	上野 芳夫
安田 峯生	菊池 康基	田中 悟	大沢 基保
今井 清	降矢 強	玄番 宗一	松澤 利明
唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝	野村 護
牧 栄二	堀井 郁夫	大野 泰雄	山添 康
上野 光一	三森 国敏		

[賛助会員]

旭化成ファーマ(株)	味の素製薬(株)	(五十音順)
あすか製薬(株)	アステラス製薬(株)	
アスピオファーマ(株)	(株)イナリサーチ	
エーザイ(株)	(株)LSIメディアエンス	
小野薬品工業(株)	杏林製薬(株)	
協和発酵キリン(株)	興和(株)	
(株)三和化学研究所	塩野義製薬(株)	
昭和電工株式会社	(公財)食品農薬医薬品安全性評価センター	
(株)新日本科学	ゼリア新薬工業(株)	
第一三共(株)	大正製薬(株)	
大日本住友製薬(株)	大鵬薬品工業(株)	
武田薬品工業(株)	田辺三菱製薬(株)	
(一財)生物科学安全研究所	中外製薬(株)	
帝人ファーマ(株)	(株)DIMS 医科学研究所	
東レ(株)	トーアエイヨー(株)	
日本新薬(株)	(一社)日本化学工業協会	
日本たばこ産業(株)	ファイザー(株)	
(株)ボゾリサーチセンター	Meiji Seika ファルマ(株)	
持田製薬(株)	ライオン(株)	

[役員] (2014～2015年度)

理事長	眞鍋 淳		
理事	青木 豊彦	天野 幸紀	上野 光一
	小野寺博志	鍛冶 利幸	菅野 純
	北嶋 聡	熊谷 嘉人	佐藤 雅彦
	関 二郎	苗代 一郎	西川 秋佳
	久田 茂	姫野誠一郎	広瀬 明彦
	務台 衛	横井 毅	吉田 緑
	和久井 信		
監事	落合 敏秋	佐神 文郎	

[学術年会長]

第43回 (2016年) 佐藤 雅彦
 第44回 (2017年) 熊谷 嘉人
 第45回 (2018年) 務台 衛

[委員会] (2014～2015年度)

●印：常置委員会 ◆印：小委員会

- 総務委員会
 - 北嶋 聡 (委員長)
 - 青木 豊彦 鍛冶 利幸 菅野 純
 - 熊谷 嘉人 眞鍋 淳 務台 衛
 - 菅野 純 (委員長)
 - 中村 和市 広瀬 明彦 (委員長)
 - 横井 毅 (委員長)
 - 小川久美子 佐藤 恵一朗 津田 修治
 - 遠山 千春 (委員長)
 - 北嶋 聡 (委員非公開)
- ◆連携小委員会
- ◆評議員選考小委員会
- ◆名誉会員および功労会員選考委員会 (2015年度)
- 財務委員会
 - 青木 豊彦 (委員長)
 - 関 二郎
 - 鍛冶 利幸 (委員長)
 - 鍛冶 利幸 (委員長)
 - 永沼 章 (委員長)
 - 永沼 章 (委員長)
 - 鍛冶 利幸 堀井 郁夫 吉田 武美 (委員長)
 - 原 俊太郎 (副委員長以下非公開)
- 編集委員会
 - ◆JTS編集委員会
 - ◆FTS編集委員会
 - ◆Executive Editor 小委員会
 - ◆田邊賞選考小委員会 (2015年度)
- 教育委員会
 - ◆生涯教育小委員会
 - ◆基礎講習会小委員会
 - ◆認定試験小委員会
- 学術広報委員会
 - ◆学会賞等選考小委員会 (2015年度)
 - ◆特別賞等選考小委員会
 - ◆技術賞選考小委員会 (2015年度)
 - ◆学術小委員会
 - ◆広報小委員会
- ★その他関連の委員会
 - IUTOX President-elect 菅野 純
 - IUTOX 担当 広瀬 明彦
 - ASIATOX 担当 永沼 章

2016年8月1日 印刷

2016年8月1日 発行

発行人 眞鍋 淳

編集人 鍛冶 利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

http://www.jsot.jp

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161